

DX を活用した先取り看護提供方式の取組

高齢化の進展や医療ニーズの複雑化に伴い、看護師にはより迅速で的確な判断が求められています。一方で、看護師は患者ケアだけでなく、情報収集、記録、連絡調整など多くの業務を担っており、患者さまと直接向き合う時間の確保が課題となっていました。そこで、当院では、ICT を活用した DX 機器を導入して患者サービスの向上に努めています。

【導入した機器】

①バイタル連携システム

血圧等の測定値が、電子カルテへ自動送信され、転記作業の削減と入力ミスの防止につなげています。

オーダー実施



バイタル・観察項目登録



患部の撮影



<バイタル連携の様子>

②ポケットチャート

電子カルテをスマートフォンで閲覧、記録できるシステムです。病棟内のどこでも必要な情報を確認し、点滴認証や記録が行えます。



③インカムと VOYT コネクト

院内のスタッフ間でリアルタイムな情報共有を行っています。人探しや、応援の依頼にも重宝しています。今後は、看護サマリーの作成にも挑戦していきます。



④ライフリズムナビ

患者さまの睡眠・覚醒状況や離床状況を可視化して、インカムを通してスタッフに知らせます。転倒転落予防、睡眠状況・排泄リズムも把握でき、個別ケアに活かされます。



<ライフリズムナビを確認している様子>



これらの DX 機器を組み合わせることで活用することにより、情報収集や記録が患者様の傍で行え、職員間の情報共有も円滑になりました。患者さまの状態変化を早期に把握でき、転倒予防や安全管理の強化につながっています。

また、業務効率化によって生まれた時間を患者ケアに充てることができるようになり、看護の質向上にも寄与しています。

【看護部が目指す姿】

DX 機器は、それぞれの用途を明確にし、業務と連動させなければ使いこなせません。生産性を向上するために、介護老人保健施設での DX 導入経験を活かし、看護提供方式自体を変更しました。

杵築市立山香病院オリジナルの《先取り看護提供方式》として、

- ①時間内の業務終了
 - ②患者様からのナースコールが来る前にケアを提供する
 - ③支え合う教育支援
- を目指しています。

今後も DX 技術を積極的に活用しながら、患者さまにとって安心・安全な医療の提供と、職員が働きやすい環境づくりを進めていきます。DX が目的ではなく、患者様、職員が笑顔になれば、地域に信頼される病院づくりを目指してまいります。

